

ナシ黒星病情報第1号

果実での発生を確認したほ場があります。注意してください。

平成24年5月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

- (1) 4月下旬の巡回調査において、32ほ場を調査したところ、異なる地域の2ほ場でナシ黒星病の発生を確認しました。発生状況は、葉における発生ほ場率6.25%、発病葉率0.09%、(平年：発生ほ場率2.59%、発病葉率0.03%)と、過去10年間と比較して発病ほ場率は2番目、発病葉率は3番目に多い状況です。
- (2) 5月上旬の調査ですでに果実での発生を確認したほ場があり、発病果率が20%を超えるほ場もありました。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や果実は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出すなど処分を徹底しましょう。
- (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう(下表参照)。
- (3) 分生胞子は降雨によって飛散するので、5～6月に雨が多い年は発生が多くなります。
- (4) 農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬 剤 名	系 統
ベルコートフロアブル	グアニジン系
スコア顆粒水和剤	E B I系
インダーフロアブル	E B I系
オキシラン水和剤	有機塩素系+有機銅
アミスター10フロアブル	ストロビルリン系
ストロビードライフロアブル	ストロビルリン系
アフエットフロアブル	チオフェン系

3 被害の様子(図1、2、3)

葉柄や中肋、葉裏にススを盛ったような病斑(春型病斑：春夏秋に発生)を生じます。果梗、果実にも同様に発病し、果梗に発病した場合は落果し、果実に発病した場合は、果実がゆがんだり、ひび割れたりします。



図1 発病したナシの葉柄



図2 発病したナシの幼果



図3 発病しひび割れたナシの果実